

## 「高校の進路指導・キャリア教育に関する調査2014」 の調査結果に対するリクルート進学総研所長 小林浩の見解

リクルートでは2002年から隔年で、高校生の進路選択に大きな影響力を持つ、高校の進路指導教員の悩みやキャリア教育の現状について調査している。今回の調査結果では、主体的・能動的な学習を引き出すための高校における授業改革の現状を調査するとともに、社会人基礎力で定義される生徒の能力について高校教員と高校生との認識の違いが明らかになった。

**1) 約半数（47%）の高校が一方向ではない、アクティブラーニング型の授業を導入。しかし、その過半数は教員個人での取り組みであり、学校全体での取り組みは1割弱（8.7%）に留まっている。意識の高い先生が牽引役となっていることがわかる。（裏面図表1）**

アクティブラーニングとは、「学生が主体性を持って多様な人々と協力して問題を発見し解を見だしていく能動的学修」と定義される。昨年12月に発表された中央教育審議会答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学選抜の一体的改革について」においても、生徒の主体的な学びを引き出すための授業改革として、アクティブラーニングの導入が提言されている。

今回の調査では、約半数（47%）の高校で、既にアクティブラーニング型などの一方向ではない授業を導入していることが明らかになった。しかし、詳細を見ると、導入校の過半数（全体の26.4%）は「教員個人」での取り組みであり、学校全体での取り組みは1割弱（8.7%）にとどまっている。現状では、意識の高い教員がアクティブラーニング型の授業改革を牽引していることがわかる。学校全体での取り組みに広げるためには、授業の進め方や成果の共有、評価方法などの支援が必要になると考えられる。

**2) 高校教員が考える生徒が持っている能力は「チームワーク」、不足しているのは「前に踏み出す力」と「考え抜く力」。高校生調査の結果とほぼ一致する結果に。（裏面図表2）**

経産省が定義する『社会人基礎力』の項目に合わせて、「これから必要とされる力」と「現在持っている能力」を聞き、その差を見た。持っている力が必要とされる力を上回ったのは、「チームで働く力（チームワーク）」に関する項目であった。一方、必要とされているが持っていない力は「前に踏み出す力（アクション）」「考え抜く力（シンキング）」に関する項目であった。高校教員からみると、規律を重視し、他人との意見は良く聞くものの、主体的に、課題を発見し行動する実行力に欠ける、そのように生徒の能力を分析していることが分かった。「高校生価値意識調査2014」で高校生に聞いた調査結果とほぼ同じ傾向となった。

※差とは「これから必要とされる力」-「現在持っている能力」としている。

## リクルート進学総研 所長 小林 浩（こばやしひろし） リクルート進学総研

<プロフィール>

1988年（株）リクルート入社。早稲田大学法学部卒。グループ統括担当や、『ケイコとマナブ』商品企画マネージャー、大学ソリューション営業、社団法人経済同友会出向（教育問題担当）、会長秘書、大学ソリューション推進室長などを経て、2007年4月より現職。文部科学省中央教育審議会 高大接続特別部会臨時委員。リクルート進学総研所長 兼、『リクルートカレッジマネジメント』編集長

PRODUCED BY RECRUIT



<リクルート進学総研とは> URL : <http://souken.shingakunet.com/>

高校生、進路選択に関する調査研究機関として、以下の活動を行っています。

- ・全国の大学、短期大学、専修学校など、高等教育機関の経営層向けの専門誌『カレッジマネジメント』の発行
- ・高校の先生を読者対象とする進路指導、キャリア教育の専門誌『キャリアガイダンス』シリーズの発行
- ・高等教育機関、高校生、進路選択に関する各種調査の実施や社外に向けての情報発信

<取材にお答えできます>

- ・大学をめぐる政策動向全般について
- ・高校生の進路や将来についての価値観・大学のブランド力
- ・高校生、保護者、高等教育機関についての各種データ・マーケット動向や事例など、高校生～大学経営まで教育に関わる内容について幅広くお答えします。

【本件に関するお問合せ・取材のご依頼】

[https://www.recruit-mp.co.jp/support/press\\_inquiry/](https://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/)

【本調査リリースの全文】 <http://souken.shingakunet.com/research/>

■アクティブラーニングなど授業改善の実施（全体／単一回答）

図表1

	(%)	導入・計			取り組み状況を把握できていない	取り組んでいない	無回答	導入・計
		学校全体で取り組んでいる	学校全体ではなく、教科で取り組んでいる	学科や教科など組織的な取り組みではなく、教員個人で取り組んでいる				
*凡例								
2014年 全体 (n=1140)		8.7	12.0	26.4	17.7	33.5	1.7	47.1
設置者別								
国公立 (n= 836)		9.1	12.7	26.6	17.7	32.5	1.4	48.3
私立 (n= 295)		7.8	10.5	26.1	17.6	36.3	1.7	44.4
大短進学率別								
70%以上 (n= 530)		10.6	13.0	33.0	14.0	27.9	1.5	56.6
40～70%未満 (n= 212)		8.5	11.8	22.2	20.3	36.8	0.5	42.5
40%未満 (n= 389)		6.4	11.1	19.8	21.3	39.3	2.1	37.3
高校所在地別								
北海道 (n= 81)		4.9	17.3	29.6	16.0	32.1	-	51.9
東北 (n= 130)		6.9	10.8	29.2	16.2	34.6	2.3	46.9
北関東・甲信越 (n= 134)		6.7	9.7	15.7	26.1	41.0	0.7	32.1
南関東 (n= 192)		11.5	11.5	37.0	15.6	22.9	1.6	59.9
東海 (n= 154)		9.1	9.7	22.7	18.8	37.7	1.9	41.6
北陸 (n= 31)		12.9	19.4	22.6	12.9	32.3	-	54.8
関西 (n= 137)		8.0	12.4	27.7	16.8	32.1	2.9	48.2
中国・四国 (n= 129)		12.4	17.1	20.2	14.0	35.7	0.8	49.6
九州・沖縄 (n= 143)		7.0	9.8	27.3	18.9	35.7	1.4	44.1

図表2

「社会人基礎力」とは

平成18年2月、経済産業省では産学の有識者による委員会（座長：諏訪康雄法政大学大学院教授）にて「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」を下記3つの能力（12の能力要素）から成る「社会人基礎力」として定義づけ。

<3つの能力／12の能力要素>

前に踏み出す力(アクション)

～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～

主体性	▲43.7	(▲30.5)
物事に進んで取り組む力		
実行力	▲28.3	(▲3.4)
目的を設定し確実に行動する力		
働きかけ力	▲1.1	(▲21.3)
他人に働きかけ巻き込む力		

考え抜く力(シンキング)

～疑問を持ち、考え抜く力～

課題発見力	▲41.2	(▲3.3)
現状を分析し目的や課題を明らかにする力		
計画力	▲14.5	(---)
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力		
創造力	▲7.2	(▲11.4)
新しい価値を生み出す力		

チームで働く力(チームワーク)

～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～

発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力	▲24.3	(▲15.9)
ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力	▲13.3	(4.2)
状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	▲1.2	(3.7)
柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力	0.2	(5.2)
傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力	5.4	(15.7)
規律性	社会のルールや人との約束を守る力	26.2	(11.3)